

『歴史人類』第49号（2021年3月）
筑波大学大学院人文社会ビジネス科学学術院
人文社会科学研究群人文学学位プログラム
歴史・人類学サブプログラム発行

朝鮮におけるカナダ女性宣教師と 女子教育

朴 宣 美

朝鮮におけるカナダ女性宣教師と女子教育

朴 宣 美

はじめに

カナダ長老派教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada、以下、WMSPC と略す) は、19 世紀後半から 20 世紀前半にかけ、海外宣教という女性の新しい社会活動を切り開いた代表的な女性伝道協会の一つである。WMSPC には、WMSPC 東部地区 (Eastern Division) と WMSPC 西部地区 (Western Division) という二つの組織があり¹、朝鮮に女性宣教師を派遣したのは、WMSPC 東部地区であった。

日本、韓国、カナダなどにおける WMSPC に関する研究は立ち遅れている。まず、日本においては、カナダメソジスト監督教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the Methodist Church, Canada) を取り上げた研究はあるものの²、台湾と朝鮮に女性宣教師を派遣した WMSPC に関しては女性宣教師の研究の中でほとんど言及されていない。韓国においては、朝鮮に派遣されたカナダ長老派教会の牧師・医者軌跡や、朝鮮半島の北東部 (咸鏡道) に設立されたカナダ長老派教会について主に研究されており³、WMSPC やカナダ女性宣教師に関する研究は皆無に等しい。カナダなどの英語圏を持つ国家においても、WMSPC から派遣され朝鮮で活動した女医や牧師⁴のほかに、朝鮮に渡って教育活動を行った女性宣教師に関してはあまり論じられていない。

本研究は、WMSPC の関係資料 (年次報告書、機関紙など) を用いて⁵、WMSPC の女性宣教師たちは、どのような意識を持って朝鮮で女子教育を実施したかを明らかにする。19 世紀から 20 世紀前半にかけ、朝鮮、中国、日本、台湾などへ渡った欧米の女性宣教師に関する研究は、かなり蓄積されている。とりわけ、アジアなどで女子教育を実施したアメリカ女性宣教師やオーストラリア女性宣教師の意識は、不十分でありながらも明らかにされている⁶。本研究では、カナダ女性宣教師を取り上げ、当時、世界各地の宣教地で女子教育を実施した欧米女性たちの意識は、国や教派を超えて欧米女性の間に広く形成されていたものであり、その意識は、女子教育を通して世界各地の宣教地の女性たちに伝わり、世界的規模で普及したものであるという点を論じる。

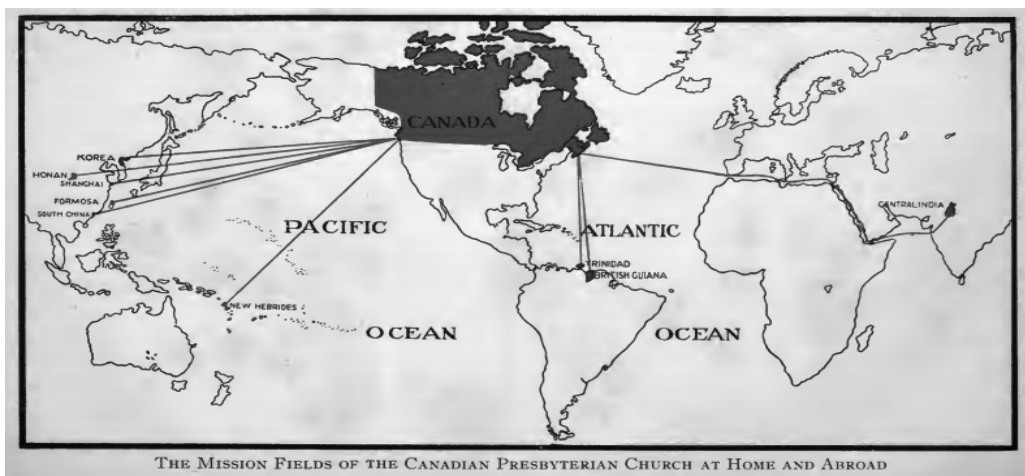
1. カナダ長老派教会女性伝道協会

(1) 設立

WMSPC 東部地区は、1876年にノバスコシア州 (Nova Scotia) のハリファックス (Halifax) で結成されたが、当時は、ハリファックス女性伝道協会 (Halifax Women's Missionary Society) という名称であった。その後、1885年にカナダ長老派教会女性海外伝道協会東部地区 (Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada, (Eastern Division)) へ、1910年にカナダ長老派教会女性海外および内国伝道協会 (Woman's Foreign and Home Missionary Society) へ、1915年に WMSPC 西部地区に習って、WMSPC 東部地区へと改称された⁷。

WMSPC 西部地区は、同じく 1876年にオンタリオ州 (Ontario) のトロント (Toronto) で結成されたが、設立当時の名称は、女性海外伝道協会西部地区 (Woman's Foreign Missionary Society (Western Division)) であった。1914年に、モンリオール女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of Montreal、1882年に結成) と女性内国伝道協会 (Woman's Home Missionary Society、1903年に結成) を統合して、WMSPC 西部地区へと改称された。

WMSPC (東部地区と西部地区) は、1925年にカナダメソジスト監督教会女性伝道協会⁸、カナダ会衆派教会女性伝道ボード⁹とともに、カナダ合同教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the United Church of Canada) へ吸収・統合されるまで¹⁰、同教会海外伝道委員会 (Foreign Mission Committee of the Presbyterian Church in Canada)¹¹ の下、女性宣教師のリクルートと派遣、宣教資金の調達、女性宣教師や宣教地に対する支援などの活動を行った。西部地区は中国とインドへ、東部地区はトリニダード島 (Trinidad)、イギリス領ギアナ (British Guiana)、ニューヘブリディーズ諸島 (New Hebrides)、朝鮮に女性宣教師を送り出した (以下の図を参照)。



WMSPC, *The Story of Our Missions*, 1915 より

以上のように19世紀末から20世紀前半にかけ、カナダ女性たちは、WMSPCをはじめとする海外伝道協会を立ち上げ、女性宣教師を世界各地に送り出した¹²。こうしたカナダにおける女性たちの海外宣教運動は、数十万人のカナダ女性たちを結集した、以前には見られなかった女性の新しい社会活動として評価されている。それほど多くの女性たちがこの運動に糾合した理由は何よりも、活動を行うために家庭の外で費やす時間が短く、活動の内容も会費を払ったり、縫物をして売ったり、会議に参加したり（時間があるときだけ）するなど、ハードルの低い活動であったためだとされる。また、女性たちは、自身の活動がカナダ全国、ひいては世界へとつながり、自身の意識も異教徒の地の憐れな女性に対する関心などへと広がることに喜びを感じ、満たされていたためだとされる¹³。

WMSPC 東部地区と西部地区は、異教徒の地の女性たちに対する宣教活動の支援に設立の目的を置いた。たとえば、WMSPC 東部地区は、「私たちの協会の目的は過去も現在も、異教徒の地における女性と子どもに対する活動を行う海外伝道委員会を支援することであり、十数年間、私たちの資金は、女性宣教師や看護師の派遣と維持、宣教地における学校、病院、女性聖書学校の建物の建築と維持に注がれたのだ」¹⁴という。WMSPC 西部地区は、「(私たちの協会の目的は) 異教徒の地の女性の教育と改宗を通して文明化へ進むように助けることである」¹⁵という。

このように異教徒の地の憐れな女性を助けるという認識は、19世紀半ばから本格的にはじまる欧米女性の海外宣教運動を支えた基本理念であった。その認識は、アメリカバプテスト教会女性伝道協会のウォーターベリー (Lucy Waterbury) により、1895年に「ユニバーサル・シスターフッド (全世界的な姉妹愛)」と表現され、彼女の書いた文章は、WMSPC 西部地区を通して、カナダ女性たちに普及した。そこでウォーターベリーは、インドや中国女性の惨めな状況について説明したあと、「あなたは、『私は敏感すぎてそのような恐ろしい話を聞くことができない』と言うかもしれない。奇妙な感受性ではないか。あなたが〔憐れな異教徒の女性たちを〕助けることを躊躇することは、あなたの姉妹たちがそのような恐ろしい状況をずっと我慢するよう強要することになる」と述べる¹⁶。

こうしたWMSPC (東部地区と西部地区) の認識は、1925年にカナダ合同教会女性伝道協会においても受け継がれる。カナダ合同教会女性伝道協会を発足するにあたって行われた行事で、アジアやアフリカの憐れな女性と子どもたちの叫びに応答するのが、カナダ女性の任務であると強調されたのである。

カナダ合同教会女性伝道協会に突き付けられている任務は何か。聞け、答えは数百万人の、荒れている中国、植民地のインド、花が咲き乱れる日本、暗黒の地と呼ばれたが今は目覚めているアフリカ、不思議の国、朝鮮、台湾の女性たちと子どもたちからくる。彼らはイエス・キリストの福音の光と癒しを求めてもだえながら、体の苦しみから楽になろうと、罪深い霊

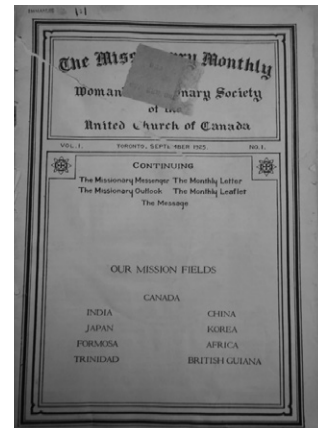
魂に平和を得ようと、精神を啓発しようと、私たちに向けて叫んでいる¹⁷。

以上のような WMSPC（東部地区と西部地区）の基本認識は、女性宣教師の意識や活動の中に反映され、また、機関紙などを通してカナダ女性たちの間にも浸透していった。WMSPC から刊行された機関紙について見てみると、西部地区は、1884 年から *Monthly Letter Leaflet* を刊行した。1897 年から *The Foreign Missionary Tidings* へ、1914 年から 1925 年までは *The Missionary Messenger* へと改称された。東部地区の場合、1893 年から 1925 年まで *The Message* が刊行されたが、その前身として 1883 年から刊行された *Monthly Leaflet* がある。

こうした WMSPC 東部地区と西部地区の機関紙は、1925 年にカナダ合同教会女性伝道協会が発足する際に廃刊され、新しく *The Missionary Monthly* が刊行されることになったが、このカナダ合同教会女性伝道協会に合流しなかった WMSPC 西部地区の一部は、1925 年から *The Glad Tidings* を刊行した。



1899 年 11 月号



創刊号の表紙 (Sep. 1926)

(2) 朝鮮宣教

1893 年に個人の資格で朝鮮に渡ったカナダ長老派教会のマッケンジー牧師 (William J. McKenzie) は、朝鮮で病死した (1895 年)。その後、カナダ長老派教会は、朝鮮から宣教師の派遣の要請を受けていたが、財政的な理由で朝鮮宣教に踏み切ることができずにいた。こうした事情を知った WMSPC 東部地区は、資金の調達に助力し、女性宣教師の派遣も約束し、カナダ長老派教会による朝鮮宣教は始まった。こうした経緯について、1901 年度の WMSPC 東部地区の年次報告書の中に、以下のように言及された。

朝鮮でマッケンジー宣教師が死去して間もない頃、マッケンジーと一緒にいた朝鮮人たちは、マッケンジー牧師が始めた仕事を引き継ぐよう、教会に請願した。私たちの会員の中の数人は、この新しい宣教地に関心を持つようになり、WMSPC 東部地区は、この案件について十分に協議した後、海外伝道委員会にこの問題を委託し、もし、同委員会が朝鮮にミッションを開くのであれば、WMSPC 東部地区は、一人の宣教師を支援すると約束した。¹⁸

1899年に3人の男性宣教師（William. R. Foote, Duncan. M. MacRae, Robert. Grierson）と、フット（Mrs. Edith Foote）とグリアソン（Mrs. Edith Grierson）という2人の女性宣教師が朝鮮に渡った。彼らは、アメリカ北部長老派教会（1885年に朝鮮宣教を開始）から元山（咸鏡南道）を譲られ、以後、咸鏡南北道を管轄することになった。同年、カナダ長老派教会朝鮮ミッション（Korea Mission of the Presbyterian Church in Canada）が開かれ、元山ステーションが置かれた。その後、城津（1901年）、咸興（1903年）、会寧（1912年）、間島の龍井（1912年）に立て続けにステーションが設けられ、各ステーションにWMSPC 東部地区は、女性宣教師を送りつけた。

WMSPC 東部地区が朝鮮に未婚の女性宣教師を始めて送ったのは、1901年であった。最初の未婚の女性宣教師は、マクミラン（Dr. Kate MacMillan）とロブ（Jennie B. Robb）だった。同年、マックカーリー（Louise McCully）も義和団事件から避難して中国から朝鮮宣教に加わった。女性宣教師は増え続け、1910年代後半には約30人に達した。以下の（表1）から分かるように、カナダ長老派教会朝鮮ミッションの宣教師（男性宣教師と女性宣教師）は、50人程度（1920年代）だった（朝鮮宣教にかかわったカナダ宣教師の総人数に関しては、今後、調査しなければならない）。女性宣教師は男性宣教師の約2倍で、既婚の女性宣教師は未婚の女性宣教師より若干多い。

表1 カナダ長老派教会朝鮮ミッションの宣教師（1899～1925）

年度	男性宣教師				女性宣教師				総計
	牧師	医療	その他	合計	未婚	既婚	医療	合計	
1899	3	(1)*		3		2		2	5
1903	4	(1)		4	3	4		7	11
1908	6	(1)		6	4	4		8	14
1913	8	(1)1		9	5	8		13	22
1914	9	(1)1		10	10	8		18	28
1915	12	(1)1		13	9	11	2	22	35
1916	11	(1)2		13	8	12	3	23	36
1917	12	(1)4		16	9	14	3	26	42
1918	13	(1)3		16	10	16	3	29	45
1919	16	(1)4		20	11	15	2	28	48
1922	14	(1)3	1	18	12	15	5	32	50
1923	14	(1)3	1	18	12	16	3	31	49
1924	14	(1)3	1	18	13	16	4	33	51
1925	14	(1)3	1	18	13	16	5	34	52

注1：(1) * とは、牧師の接手を受けた医者を意味。従って合計には含まない。

注2：女性宣教師のうち、医療関係の宣教師（未婚）は、別枠で明記した。

注3：1899～1908年度の統計は、1923年度の報告書による。

出所：Minutes and Reports of the Annual Meeting of the Council of the Korea Mission of the Presbyterian Church in Canada, 1913-1925（1899～1912年度の報告書は未入手。1925年にWMSPC 東部地区がカナダ合同教会女性伝道協会へ吸収された後、この報告書の刊行は中止されたと思われる）。

WMSPC 東部地区の女性宣教師は、すべてのプロテスタント教派の女性宣教師と同様、教育（女学校、女性聖書学校、夜間学校などの開設と運営など）、医療、伝道の活動を行ったが、1936年から新しく農村における社会福祉活動にとりかかる。この社会福祉活動が開始された背景と進捗状況について、次のように報告されている。

マッキノン宣教師（Miss Maud J. MacKinnon）は、サバティカルの時に4カ月間、イギリスとデンマークに滞在し、ミッションの新しい事業として計画されていた、農村における社会福祉事業の準備にとりかかった。……いくつかの協働農民学校（Cooperative Folk School）と農村家内産業所（Rural and Home Industry）を訪問して、私たちの農村プロジェクトの立ち上げに役立つ多くのアイデアを收拾することができた。マッキノンが元山に戻った後、会寧と元山に農村研究所を設立する案が具体化した。……元山の夜間学校は、生徒の人数が増加し、盛況を収めている。この夜間学校に農村社会研究所（Rural and Social Institute）の学生たちが実習をしているが、この研究所は、貧しい家庭の子どもに教育の機会を与えることと、彼らを教師に育てること、この二つを目的としている¹⁹。

農村事業に大きな関心が集まっている。この数年間、農村プログラムは、マッキノンとバービッジ宣教師（Mr. Burbidge）の指導のもとに元山と会寧で行われている。朝鮮ミッションによって、さる7月に、城津ステーションでは、農村事業と伝道事業に集中することが決まり、農村研究所が開かれたが、多くの生徒がいたるところから集まった。マッキノンがこの農村事業を組織化しており、農村研究所は教会の農村リーダーを養成するセンターとして活用されている²⁰。

カナダ長老派教会朝鮮ミッションの農村研究所に関しては資料の制約もあって詳細に明らかにすることができないが、少ない人数の宣教師が農村に入ることができる仕事に限りがあるため、この研究所を中心に、就学できない貧しい農民の師弟に教育の機会を与え、彼らを通して農村を啓蒙していく活動を1930年代後半から行っていたのであろう。しかし、1940年、神社参拝問題が起こり、カナダ長老派教会朝鮮ミッションは撤退したため、こうした地域に密着した活動も大きな成果をみることなく中止されてしまったのか、または朝鮮人の教会員たちによって継続されていたか、その行方は不明である。

2. 女子教育

(1) 女学校

WMSPC 東部地区は、「学校は朝鮮人に対する啓蒙活動や伝道活動を行う重要な場所」²¹である
と、教育事業に対する基本認識を明らかにしたが、その認識は、すべての宣教師または海外宣教
運動に共有されていたものである。1899年に元山ステーションが開かれた直後、教会に主日学校
昼間部が設けられ²²、フット (Mrs. Edith Foote) は、女子生徒を担当した。

彼女は WMSPC 東部地区に送った書信の中に、「(1900年春) 私は女子生徒たちの勉強が伸びた
ことに励まされました。2人以外のすべての女子生徒は、自分で聖書の勉強ができるようになって
います。現在、元山に女子児童のための学校 (school for girls) は1校しかありませんが、3校
があればと希望しています。少し遠い二つの町にも学校が開設されるべきです」²³と述べた。この
ように、1899年に元山で女性宣教師が始めた女子教育は、教会で読み書き、聖書、教理などを教
える程度のものだったと思われる。

このような女子教育の状況は、1901年に置かれた城津ステーションにも同様に見られる²⁴。こ
うして朝鮮宣教が開始された直後における女子教育は、女学校が開設される前の段階で実施され
たものだが、カナダ合同教会女性伝道協会は、元山でフットが担当した学校を、「カナダ長老派教
会朝鮮ミッションが開設した最初の女学校」

として評価した²⁵。

いずれにせよ、1900年代半ば頃から、次々、
各ステーションに女学校が開設される。まず、
1903年に咸興に女学校が開設される(永生女
学校、修学年限4年)。1899年から朝鮮女性
が自宅で何人かの少女に文字を教えていたの
をマクレー (Mrs. MacRae) が引き継ぎ、校舎
を構えて女学校に発展させたのである²⁶。そ
の開設の状況に関して、次のように報告され
ている。



咸興の女学校の旧校舎

The Missionary Monthly, Feb. 1926 より

咸興にある私たちのミッション女学校は、この町で初めてクリスチャンとなった申夫人 (Mrs. Shin) によって始まったと言われている。彼女は、当時、文字が読める数少ない女性の一人で、……彼女は、8歳、10歳の少女たち何人かを集め、自宅で本人が知っているすべてを教
えていた。彼女が塾を開いてほぼ25年経った。……マクレーがこの咸興に赴任した時〔1903
年〕に、小さい校舎を構えて申夫人の塾を引き継ぎ、自身の朝鮮語の先生とバイブル・ウー

マンの助けを得ながら、責任者として学校の運営に乗り出すと、この女学校は瞬く間に発展した²⁷。

次いで、元山に進誠女学校（1904年頃、修学年限4年）、城津に普信女学校（1909年？、修学年限4年）、龍井に明信女学校（1912年、修学年限4年）、会寧に普興女学校（1912年、修学年限4年）が立て続けに開設され、それぞれに高等科（修学年限2年）も設置されていく。1911年、咸興の永生女学校の高等科に、聖書、地理、歴史、衛生、音楽、漢文、作文が教科として編成されていたが²⁸、他の女学校においても同様の教科が教えられていたと考えられる。そして、永生女学校と明信女学校の場合は、女子高等普通学校（修学年限4～5年）のレベルにまで発展していく。

1921年、WMSPC 東部地区の幹部は、「教会は〔朝鮮における〕教育事業にもっと力を入れるべきだ。入学許可を得られず涙を流しながら家に帰る少年と少女を想像してみてください。全国に設備の整った学校とカレッジがあるカナダに暮らす私たちは、知識に渴いている朝鮮の人々に対する責任を感じなければならない」²⁹と語った。そのような WMSPC 東部地区の意向もあって、カナダ長老派教会朝鮮ミッションは、学校体系や施設の整備に取りかかる。

それで1922年、カナダ長老派教会朝鮮ミッションの教育委員会は、「私たち朝鮮ミッションは、咸興の女学校を朝鮮総督府の認可もしくは指定を受ける女子高等普通学校として発展させることを最終的目標とし、それを提案するが、当分の間は、中等女学校〔修学年限5年の各種学校〕として開設することを提案する。他のステーションの女学校は、修学年限2年の高等科を持つ学校のままに維持することを提案する。また、龍井の女学校は、女子高等普通学校に準ずる〔修学年限4年〕教育を行う学校として維持することを提案する」³⁰と、女学校の方針を決める。1925年度における中等学校は8校である（表2参照）が、そのうちの5校は、各ステーションに開設されたこの5つの女学校である。

咸興の永生女学校は、カナダ長老派教会朝鮮ミッションにおける女子教育の殿堂の地位を得る。他のステーションの女学校の卒業生たちは、上級課程の教育を求めて永生女学校に進学・編入した。「私たちは、今後、教師となり、バイブル・ウーマンとなり、看護師となり、家庭の主婦となり、教会の指導者となり、朝鮮人のための社会事業家になろう、これらの聡明な女子生徒



咸興の女学校の新校舎

Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada, 1930 より



龍井の女学校

Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada, 1936 より

たちをことさらに高く評価しようとしているわけではない。これらの女子生徒、特に高学年として寮に入っている女子生徒たちは、校長〔Ethel MacEachern〕の指導のもとで継続的に訓練を受けている。寮生たちは夜間学校や主日学校で教えている。彼女たちは自分の出身地や田舎に行ってもそこでも教えたりする。……この女学校は私たちの宣教地域において朝鮮総督府の認可を受けた唯一の女子高等普通学校で、他の4つのステーションの女学校の卒業生たちは、上級の教育を受け

るためにこの学校に集まってくる』³¹という。

以上のように、カナダ女性宣教師たちは、朝鮮半島の北東部と間島で初等と中等課程の女子教育を実施したが、カナダ長老派朝鮮ミッションは男子教育も実施した。カナダ長老派朝鮮ミッションによる教育事業をまとめると、以下の（表2）の通りである。

学校と生徒に対する性別の統計などがいないため、詳細な分析は難しいが、初等学校においても中等学校においても、1920年代の前半に生徒数が急増したが、後半からは学校数も生徒数も減った³²。1920年代に公立学校が徐々に普及し、また、朝鮮総督府のミッション系の私立学校に対する統制も厳しくなったことが関係している。しかし、それは一時的な現象で、1930年代になると（統計

表2 カナダ長老派教会朝鮮ミッションの教育事業（1903～1925）

年度	初等学校		中等学校		神学校 学生数	学生総計
	学校数	生徒数	学校数	生徒数		
1903	4	100	-	-	-	200
1908	20	384	3	48	8	440
1913	51	1,274	3	98	17	1,389
1918	66	2,264	6	296	20	2,580
1922	90	5,286	8	979	29	6,294
1923	91	6,295	13	1,220	36	7,551
1924	81	5,202	10	1,137	21	6,360
1925	57	3,708	8	618	27	8,679

注1：神学校：平壤所在の長老派教会の神学校。

中等学校：時期によって修学年限2～5年（高等科、高等普通学校、女子高等普通学校にあたる）。

初等学校：時期によって修学年限4～6年（普通学校にあたる）。

注2：1899～1918年の統計は、1923年度報告書による。

注3：1919～1921年度は不備があるため明記しない。

出所：（表1）と同じ。

はないが)、朝鮮児童の就学率の上昇により、初等学校における生徒数も中等学校における生徒数も増加したと推測される(学校数の変動はあまりなかったと思われる)。例えば、1935年度、5つの女学校に在籍した生徒は2,131人(初等課程に1,488人、中等課程に643人)であった³³。

つづいて、カナダ長老派教会のミッション・スクールにおける朝鮮人教師(男女)は、次の(表3)から分かるように増えつづけ、1920年代前半に200人以上に達した。宣教師は現地人の助力者を必要としたように、教育事業には朝鮮人教師の存在が絶対的に重要である。「教育に対する要求は最高潮に達している。各地域にミッション・スクールがあり、私たちのクリスチャン教師は、宗教教育が可能な中等学校を切実に求めている。今日、朝鮮が必要とするのは、現地人リーダーであり、今こそ私たちの女性の中からリーダーを養成する時である」³⁴と述べられているように、教師をはじめとする朝鮮人リーダーを養成することは、教育事業の目的でもあった。(表3)から分かるように、1910年代後半、初等学校の教師が急増したが、それは、中等学校(修学年限2年の高等科、修学年限4～5年の中等課程)の卒業生が増加したこと(表2を参照)と、その卒業生たちの多くは初等学校に教師として迎えられたことに関係する。

表3 朝鮮人教師(1908～1925)

年度	初等	中等	合計
1908	26	-	26
1913	70	-	70
1916	53	16	69
1917	73	16	89
1918	134	25	159
1919	126	25	151
1922	160	31	191
1923	204	53	257
1924	196	48	244
1925	127	39	166

注および出所：(表1)と同じ、性別の統計はなし。

「私たちの咸興の女学校は愛しい女子生徒たちの明るい声が溢れ、学びの熱気に満ち溢れている。3月に冬季学期が終了し、11人が卒業したが、そのうち10人が教師になった。残りの一人はもう1年勉強してから教師になる予定である。3人は私たちの咸興の女学校で約120人の女子生徒を教えることになった。……教師たちはクリスチャンであり、殆どは主日学校においても教えている」³⁵と述べられたように、ミッション・スクール(中等学校)の卒業生の多くは、初等学校の教師となったのである。中等学校の教師の場合、他のミッション・スクール(アメリカ北部長老派教会やアメリカ北部メソジスト監督教会のミッション・スクールなど)の上級課程を終えて

赴任することが多かった。そして、教師たちは、学校のほかに主日学校、夜間学校などにおいても教えており、地域のリーダーとして多くの仕事を引き受けていた。

(2) 女性宣教師の意識

カナダ女性宣教師は、他の国や他の教派の女性宣教師と同様な見方を持っており、朝鮮女性は名前がなく、教育も受けられず、劣悪な住宅環境のもとで家事に埋もれて人生を過ごす憐れな状況に置かれているとして、そのような朝鮮女性を救い出すために女子教育を重要視した。ここでは、女子教育にかかわった女性宣教師の言葉を通して、女子教育の目的について、言い換えれば、女子教育を通して女子生徒に植え付けようとした女性像について検討する。

1910年、3つのステーションに女学校が開設されており、女子教育が朝鮮人の間に着々と受け入れられ、女子生徒が増えていったその時期に、元山ステーションのロブ (Mrs. Robb) は、カナダのニューブランズウィック州 (New Brunswick) のモンクトン (Moncton) で開かれた1910年度 WMSPC 東部地区年次会議に出席して演説し、その中で、女子教育の目的について、次のように話した。

私たちは、女性たちが以前には与えられていなかった機会を得るべきだと思い、女学校を開設しています。その目的は、女子生徒たちが教育を受け、日本女性やイギリス女性が自分たちの国や家庭の中で持っている地位と同様の地位を得ることができるようにすることです³⁶。

ロブは、日本女性とイギリス女性の社会的地位について具体的に述べていないが、おそらく国から教育機会が与えられていることや、主婦、妻、母としての役割が尊重されている点などを意味したのだろう。このように女性宣教師は、自分たちが属する欧米の女性や、また、アジアの中で文明化が進んだ国として日本の女性が享受していた地位をめざして、朝鮮女性の地位を向上させていくことに、女子教育の目的・意義を置いていた³⁷。

そうした女子教育は、朝鮮女性たちの女性としての意識を変えることであったが、それは一定の欧米化を意味するものであった。例えば、自身の意見を持ち、人の前でそれを積極的に述べるようになること、家庭の中で以前の従順な態度を捨て、家政を取り仕切るようになること、家庭の外(教会など)へ出て率先して他の教育を受けていない女性たちをリードすることなどを意味した。

しかし、女性宣教師は、こうした女子教育がもたらす意識や行動の変化を手放して喜んでいただけではなかった。以下の引用のように、そうした欧米化により朝鮮女性が従来から持っている美德(謙虚さなど)が薄れたり、損なわれたりしてしまうことに懸念を抱いており、いわば東洋女性の徳目を保ちながら、新しい女性性を育てていく必要性をも自覚していたのである。

主は私たちを補助するよう数名の朝鮮人教師を送ってくださったが、教師たちは私たちの仕事の負担を一定減らしてくれそうだ。とりわけ黄夫人—体の小さい婦人だが、過去、彼女が住む町のなかで文字が読める唯一の女性だった—を送ってくださったことに感謝している。彼女の礼儀正しさと謙遜さは、生徒の模範になっており、彼女は私たちが教えられない東洋の礼法を生徒たちに教えている。朝鮮の女子が持つ質素さや純粹さを守りながら、私たちが享受するキリスト教の信仰の特権を彼女らに与えることは、容易な仕事ではない。これらの朝鮮の新女性にかかわる仕事は、みなさんのお祈りを必要としている。この転換期において、朝鮮の女子を教える私たちが、何を教えるべきで、何を变えずにそのままにしておくべきか、女子の前でどのように振る舞うべきかを知るように、それで高尚な女性性に彼女たちを惹きつけることができるようにお祈りください³⁸。

上述したように、カナダ女性宣教師は、朝鮮で初等学校と中等学校を開設したが、中等教育の普及より、初等教育や実用的な教育をより重視した。「(城津の女学校において) この春、14人の女子生徒が高等科を修了〔普通科を含めて修学年限8年を終了〕するが、一部は上級学校へ、また一部は看護学校へ進学するだろう。私たちは、低学年の生徒に対しては基礎科目、高学年の生徒に対しては実用的な科目を教えることに重点をおいており、経済的な余裕のある家庭の生徒は例外だが、生徒たちに中等教育について強調してこなかった。このような方針を踏まえ、今後、私たちは〔高等科の終了後の〕1年コース、例えば、家政学、音楽など、ホームにおける女性の義務を果たすのに必要な科目を編成したコースの開設を考えている」³⁹と。つまり、高学歴の女性人材の養成も重要だが、それより基礎知識と実用的なスキル(裁縫など)を重んじる女子教育を行い、それを通して新しいホームを作り上げる主婦を養成しようとした。しかし、高等科の卒業生を対象とする家政学コースの設置の試みもあったように、女子教育が進むにつれ、より高い教育を受けた主婦・母の養成を目指すようになっていた。

家政学コースは、会寧の女学校にも設置された。「私たちは、財政的またはほかの理由で〔高等科を卒業して〕上級課程に進学できなかった女子生徒のために、新しいコースを開設した。それは1年もしくはそれ以上の家政学コースである。このコースにおいては、一般科目の上級教科の他に、私たちがずっと念願してきた科目として栄養、献立、介護、育児、衣料関係が編成される」⁴⁰という。また、家政学コースではないが、龍井の女学校においても、「中等課程〔女子高等普通学校に準ずる〕において、家政学、裁縫、農事にかかわる職業訓練を強調している」⁴¹とされているように、女性宣教師たちは、女子生徒に家政学を教え、高いレベルの主婦を養成しようとしたのである。

こうした女性宣教師の意識は、学校教育を受けられない女性のための活動にもあらわれる。「(元山ステーションで) 去年12月に年次女性クラスが開かれ、都市と田舎の女性を霊的に充電させた。

女性の領域と責任が全体テーマであった。班分けされた参加者たちは、強い関心を持って女性の領域であるホーム、地域、教会について討論した⁴²と報告されたように、女性宣教師たちは、女性の領域を家庭としたうえで、主婦に要求される家庭や地域社会に対する責任意識を、地域の女性たちの間に浸透させようとしたのである。

しかし、女子教育を通して多くの女教師が輩出されたように、女性宣教師は、社会で活動する女性も自分たちが育てる新しいタイプの女性であると自負した。「(龍井の女学校において)一人の各段に有能な若い女性が舎監として、学校の聖書の教師として勤めている。彼女は人を引き付ける魅力的な性格の持ち主であり、一般科目を教える十分な資格を持っていて、聖書の知識や伝道に対する熱意も素晴らしい。……もう一人の若い女性が、今年、教師として加わったが、彼女もクリスチャンリーダーとしての卓越した能力を発揮している。私たちはこれらの女性たちが朝鮮における新女性の一つのタイプであり、私たちの学校はこうした女性の輩出に貢献するだろうと信じている」⁴³と。

要するに、女性宣教師たちの女子教育観、言い換えれば、女子教育を通して育てようとした女性像は、当時の欧米女性のように、母や主婦としての家庭内の役割を果たしながら、家庭の外(教会、社会)に出て活動を行い、女性としての責任をなすことによって自己の社会的地位を高める女性であった。彼女たちは、そのような新しい女性像・女性性は、謙虚さなどの東洋女性の徳目とも調和するものとして考えており、朝鮮女性たちが教育を通して得た知識と地位を他の女性のために使うことを重要視した。

このような女性宣教師たちの考えは、女子生徒や地域の女性たちへ浸透していったと見ることができよう。もちろん、本稿ではWMSPCの関係資料を主に用いるため、女子生徒や地域の女性たちの反応を詳しく論じることができない。とはいえ、教育を受けたい女子生徒にとって、1934年にいたるまで咸鏡道に公立女子中等学校が存在しなかった地域の特徴もあって(1935年に咸鏡南道に咸興女子高等普通学校、咸鏡北道に羅南女子高等普通学校が設立される)、カナダ女性宣教師が設立した女学校はあこがれの的であり、絶対的な存在感を放っていたと思われる。新校舎の建築を請願するために咸興の女学校の生徒たちがWMSPC 東部地区に送った手紙の中に、「私たちは貧しくて無知な朝鮮人で、暗闇の中に生きており、罪の鎖につながっていましたが、西洋は東洋を知りませんでした。しかし、神様は私たち憐れな人たちを救うために、山や溪谷や海を越えて善良な宣教師を送ってください、彼らを通じて私たちは光を受けて主イエスを知るようになりました」⁴⁴と述べられたように、女性宣教師の存在は、女子生徒に大きな意味を持ったのだろう。女性宣教師の影響力は地域の女性たちにも及び、多くの女性たちは夜間学校、女性聖書学校、教会の様々な女性班に殺到し、それらの場所は女性たちの学びの喜びや活気にあふれていたのがあった。

おわりに

本稿では、カナダ長老派教会において WMSPC（東部地区と西部地区）が設立された経緯や、カナダ長老派教会により朝鮮宣教が開始された経緯を明らかにした。また、WMSPC 東部地区より派遣された女性宣教師が実施した女子教育の状況や、女子教育にかかわった女性宣教師たちの考えも明らかにした。

WMSPC 東部地区の女性宣教師は、朝鮮の北東部（咸鏡道）と間島に女学校（修学年限 4～6 年の初等課程と修学年限 2～5 年の中等課程を設ける）5 校を開設した。これらの女学校は、1935 年にこの地域に公立の女子高等普通学校が設立されるまで、この地域の朝鮮人の女子生徒に対して中等教育を施す独歩的地位を占めていた。

女性宣教師たちは、女性の領域は家庭であるという認識を持ち、女子教育を通して新しいホームを形成する主婦を養成しようとした。また、女性として家庭の外（教会、地域など）で活躍することも重視し、多くの女教師を輩出した。

女性宣教師たちの意識の根幹には、ユニバーサル・シスターフッドという名の下で広がった、アジア女性などに対する欧米女性の眼差しが存在した。それを、自分たちを文明化された女性の地位におき、朝鮮女性などを遅れた憐れな女性として見なす優越意識として批判することもできる。しかし、何より重要なことは、そのような意識を原動力にして、どのような考えが朝鮮女性の意識の一部となって広がり、それが社会をどのように変えていったかだろう。

女性宣教師の女子教育がもたらしたものは計り知れない。女性宣教師が浸透させた、「女性も教育を受けなければならない」という意識は、社会を根本的に変える考えで、海外宣教を通して世界の多くの国・地域に広がった。本稿では、女性宣教師の意識を彼女たちの言葉を用いて明らかにしたが、今後、その影響について朝鮮女性の立場に立って多角的に検証する必要がある。

註

- 1 東部地区とは、カナダの最東部の 3 州（ニューブランズウィック州、ノバスコシア州、プリンスエドワードアイランド州）を意味し、西部地区とは、東部地区以外のカナダ全地域を意味する。
- 2 1882 年にカナダメソジスト監督教会女性伝道協会から日本に派遣されたカートメル（Martha Julia Cartmell）は、1884 年に東京の麻布に東洋英和女学院を開設した。日本においては東洋英和女学院に関係したカナダ女性宣教師を中心に研究が行われている。松本郁子「カナダ・ミッション婦人宣教師の視点から見た日加関係—東洋英和女学校校長室のスクラップブック（1889～1938）をもとに—」『関西学院史紀要』第 25 号、2019 年、103-129 頁；松本郁子「第二次世界大戦以前におけるカナダ人婦人宣教師たちの日加交流—東洋英和女学校のスクラップブック（1889～1938）の分析から—」『カナダ研究年報』第 39 号、2019 年、16-33 頁；手塚竜庵「カナダメソジストミッションの教育活動—女子教育を中心として—」『英学史研究』第 5 号、1973 年、1972 年、33-46 頁など。カナダメソジスト監督教会の日本宣教に関しては、高嶋祐一郎「カナダ・メソジスト教会の日本宣教方針の形成—C. S. イビーの活動を手がかりとして—」同支社大学キリスト教社

- 会問題研究会『キリスト教社会問題研究』第40号、1992年、100-135頁など。
- 3 ムン・ヨンソク「韓国の近代化過程におけるカナダ宣教師たちの貢献と評価」『カナダ研究』第10号、2002年（韓国語）；金・ソンテ『韓末と植民地時代における宣教師研究』韓国キリスト教歴史研究所、2006年（韓国語）；崔・ソンス『召命を受けて地の果てまで—内韓カナダ宣教師たちの生と信仰、献身の足跡—』ホンソン社、2011年（韓国語）；許・ユンジョン、ジョ・ヨンス「植民地時代におけるカナダ長老派教会による医療宣教と朝鮮人医師—城津と咸興を中心に—」大韓医師学会『医師学』第51号、2015年、621-658頁（韓国語）など。
 - 4 Ruth Compton Brouwer, "Home Lessons, Foreign Tests: the Background and First Missionary Term of Florence Murray, Maritime Doctor in Korea" , *Journal of the Canadian Historical Association*, Vol.6 No.1, 1995, pp.103-128; Ruth Compton Brouwer, *Modern Women Modernizing Men : the Changing Missions of Three Professional Women in Asia and Africa, 1902-69*, Vancouver, B.C. : UBC Press, 2002; Ji-Il Tark, "Religious Identity, Cultural Difference, and Making a Sacred Place: An Historical Study of Canadian Missions in Korea, 1888-1925," *Canadian Society of Church History*, 1999, pp.99-117 など。
 - 5 The United Church of Canada Archives, Toronto, The Presbyterian Church in Canada Archives, Toronto, The Knox College Library, Toronto, Victoria University-Emmanuel College Library, Toronto などに所蔵されている。
 - 6 拙著「オーストラリア長老派教会朝鮮ミッションと女子教育」筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類専攻『歴史人類』第48号、2020年、70-92頁；同「戦前の東アジアにおけるアメリカ人女性による女子高等教育—アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会（WFMS）の活動を中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類専攻『歴史人類』第47号、2019年、54-74頁；同「朝鮮に渡ったアメリカ・プロテスタント女性宣教師—アメリカ北部メソジスト監督教会海外女性伝道協会を中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類専攻『歴史人類』第46号、2018年、103-126頁；同「朝鮮におけるアメリカ・プロテスタント宣教師による女子教育—米国南長老教会朝鮮ミッションを中心に—」筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類専攻『歴史人類』第43号、2015年、103-126頁など。
 - 7 WMSPC の歴史に関しては、Agnes F. Robinson, *A Quarter of a Century (1876-1901): Sketch of the Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada (Western Division)*, 1901; The Women's Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada, *The Story of Our Missions*, 1915; Woman's Missionary Society of Presbyterian Church in Canada, Eastern Section, *Fifty Years of Woman's Missionary Work*, 1926; Elizabeth M. Turnbull ed., *Through Missionary Windows: A Story of the Home and Foreign Work of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada, 1937-1938*; *The Woman's Missionary Society of the United Church of Canada, History*, 1961; Wendy Mitchinson, "Canadian Women and Church Missionary Societies: A Step Towards Independence," *Atlantis*, Vol.2 No.2, 1977, pp.57-75; Presbyterian Church in Canada Archives, *Records of the Women's Missionary Society (Eastern Division), 1880-1988*, 1988; Presbyterian Church in Canada Archives, *Records of the Women's Foreign Missionary Society (Western Division), 1877-1914*, 1988 などを参照した。
 - 8 カナダメソジスト監督教会女性伝道協会 (Woman's Missionary Society of the Methodist Church in Canada) は、カナダメソジスト監督教会中央伝道協会 (General Missionary Society of the Methodist Church in Canada) の要請を受け、1881年に結成される。
 - 9 カナダ会衆派教会女性伝道ボード (Canada Congregational Women's Board of Missions) は、1871年にアメリカのボストン会衆派教会女性伝道ボードによりモントリオールで結成された。1886年にカナダ会衆派女性ボード (Board for the Congregational Women of Canada)、そのあと（年度不明）、カナダ会衆派女性伝道ボードへ改称される。
 - 10 WMSPC 西部地区の一部は統合に反対し、カナダ長老派教会女性伝道協会として活動を続ける。
 - 11 カナダ長老派教会海外伝道委員会は1875年に組織されたが、当時は、東部地区と西部地区に分かれており、

1915年に統合された。

- 12 カナダ・プロテスタント教派として女性伝道協会を最初に結成したのは、カナダの最東部の3州におけるバプテスト教会の女性たちであった。カナダバプテスト教会の最初の女性伝道協会は、1870年に結成されたノバスコシア州キャンソ女性伝道支援協会（Woman's Missionary Aid Societies at Canso, Nova Scotia）で、1874年にノバスコシア、ニューブランズウィック、プリンスエドワードアイランド女性バプテスト海外伝道協会中央ボード（Central Boards of Woman's Baptist Foreign Missionary Societies for Nova Scotia, New Brunswick and Prince Edward Island）へと発展した。
- 13 Wendy Mitchinson, *Ibid* など。
- 14 WMSPC (Eastern Section), *Fifty Years of Woman's Missionary Work*, 1926, p.14.
- 15 Woman's Foreign Missionary Society (Western Division), *Annual Report*, 1880, p.12. Wendy Mitchinson, *Ibid*, p.64から再引用。
- 16 Lucy Waterbury, *The Universal Sisterhood*, Women's Foreign Missionary Society, Presbyterian Church in Canada (Western Division), 1895, p.4. ウォーターベリーのこの文章は、19世紀末から20世紀前半までにカナダで行われた第一波女性運動を代表する文章の一つとして、Nancy Forestell, Maureen Moynagh eds, *Documenting First Wave Feminisms: Volume II Canada - National and Transnational Contexts*, Toronto; University of Toronto Press, 2014の中に収録された。
- 17 Mrs. G. E. Forbes, "The New Canadian in the East," *The Missionary Monthly*, Jan. 1926, p.268.
- 18 "Foreign Mission Work," *Twenty-Fifth Annual Report of the Woman's Foreign Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada (Eastern Division)*, 1901, p.14. この報告書には、朝鮮宣教の開始にいたるまで果たしたWMSPC 東部地区の役割が控えめに書かれている。しかし、1925年の報告によれば、WMSPC 東部地区は朝鮮宣教の開始のために積極的に働きかけていたことがわかる。「1897年、朝鮮からマリタイム総会（the Maritime Synod）に、マッケンジー牧師によってはじめられた事業を私たちの教会が引き継ぐことを請願する手紙が届いた。マッケンジー牧師は、個人の資格で朝鮮に渡ったが、彼の急死により、立てられたばかりの朝鮮の教会は一人の宣教師もいまま残されたのだ。当時、海外ミッション基金に負債が増大しており、総会は「朝鮮宣教の開始を」躊躇した。女性伝道協会は活動の相当な部分を引き受けると提案し、それでミッションが開かれ、急成長し、宣教師を送ってもその発展の速度に間に合わないほどである」。Anna MacKelvie Parker, "An Ever-Widening Vision," *The Missionary Monthly*, Sep. 1925, p.32.
- 19 A. E. Armstrong, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*, 1936, p.315.
- 20 "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*, 1937, p.67.
- 21 Effie Bruce "Korea, Report of Foreign Secretary of the Woman's Missionary Society," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the Presbyterian Church in Canada (Eastern Section)*, 1921, p.49.
- 22 "Letter from W. R. Foote, Wonsan, Corea, Nov. 8, 1899," *The Message*, Mar. 1900, p.1.
- 23 "Extracts from Letter from Mrs. Foote," *The Message*, June 1900, p.6.
- 24 「[1901年に城津へ移った] グリアソン (Mrs. Grierson) は、教会で女性たちを教えている」という。"Extracts From the Fourth Annual Reports of Our Mission in Korea," *The Message*, April 1902, p.4.
- 25 "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*, 1926, p.239.
- 26 他の報告によると、申夫人の塾には8～10人の女子生徒が集まっていた。"Story of Hamheung Girls' School, Korea," *The Missionary Messenger*, May 1925, pp.57-58; "The Hamheung Girls' School," *The Missionary Monthly*, Feb. 1926, p.312.
- 27 Mrs. A. W. Robb, "The Hamheung Girls School," *The Message*, Nov. 1924, pp.4.
- 28 "Louise McCully's Report of Work for Year Ending in October, 1911," *The Message*, May 1912, p.8.

- 29 Effie Bruce, *Ibid*, p.51.
- 30 "Report of Educational Committee," *A Synopsis of Minutes of the Annual Meeting of the Council of the Korea Mission of the Presbyterian Church in Canada*, 1922, p.22.
- 31 Mrs. A. W. Robb, *Ibid*, p.4. 1923 年度カナダ長老派教会海外伝道委員会の年次会議においても、永生女学校は朝鮮ミッションの戦略的中心校となったと報告された。"Korea," *The Missionary Messenger*, June 1923, p.176.
- 32 このような状況は、オーストラリア長老派教会が朝鮮の南部地域（慶尚道）に行った教育事業にも共通に見られる。拙著、2020 年を参照。
- 33 A. E. Armstrong, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*, 1935, pp.276-289. ただし、同年度、元山の女学校の中等課程に在籍した生徒数に関しては情報が欠けているため、この数字に含まれていない。
- 34 "Korea," *The Missionary Messenger*, June 1923, p.176.
- 35 "Korea," *The Missionary Messenger*, June 1922, p.495.
- 36 "Thirty-Fourth Annual Meeting," *The Message*, Nov. 1910, p.4. 当時、カナダ女性宣教師は、オーストラリア女性宣教師と同様に、自身をイギリス女性またはヨーロッパ女性としてアイデンティファイしていた。
- 37 女性宣教師の日本認識については拙著（2018 年）を参照。当時、アメリカ女性宣教師たちは、日本女性の社会的地位は、他のアジアの諸国の女性たちの社会的地位より高いと評価した。カナダ女性宣教師たちも日本・日本人に対して好感を持っており、日本女性たちは、他のアジアの女性たちと比較して文明化されていると見た。*The Message* (Jan. 1918) に、アメリカ北部メソジスト監督教会の司教であるフィッシャーの文章（日本と朝鮮を訪問した後、インドに行く途中に *The Missionary Review of the World* に寄稿したもの）が掲載された。ここに示された彼の日本認識は、カナダ女性宣教師はもちろん、多くの宣教師たちに共有されていた認識であろう。「[進んでいる日本と遅れている朝鮮を比較したあと、次のように述べる] 地方の官憲たち、朝鮮人学生と商人たち、宣教師と朝鮮人牧師、日本人の旅行客、朝鮮に居住するヨーロッパ人とアメリカ人、これらの人々に聞いたところ、結論はこうだ。日本の統治は、朝鮮人が以前、一度も経験しなかった最高の統治であると。日本が朝鮮人に最高の経済的機会と教育的機会を与えていると。……朝鮮の町々はどんなに汚いか。私たちが彼らに伝えたキリスト教が彼らの生活の標準を高めなければ、彼らのよりよい人生は期待できないだろう。朝鮮人は未来の地獄から救われなければならないが、現在の地獄からも救われなければならない。……だから人々は期待している。日本が政治的効率性だけでなく、教育的にも、道徳的にも、霊的にも尽力してくれることを。多くの朝鮮人は、当然、独立の喪失で心が痛んでいるが、外国の支配は避けられないものだった。朝鮮人たちは一つになれないので自分たちの手によって統治することができない。今、朝鮮は他国から教育を受けなければならない。朝鮮は日本人の統治が彼らに与える長点を享受すべきである。文明が朝鮮の門を叩いている。この時、朝鮮は怖さを振り払って立ち上がり、世界から見慣れていない人々を招き呼ぶべきである。これらの客は朝鮮に多くのことを教えることができる。これらの教えが遠い未来の独立を意味するかどうかはまだわからない。未来のことはさておき、まず、今の利点を獲得しなければならない。……日本は東洋の発展の必要性について知っており、自身を東洋の諸国の指導者として見なしている。日本は自身を東洋と西洋をつなぐ存在として見なしている」 Fred B. Fisher, "Impressions of Japan and Chosen," *The Message*, Jan. 1918, p.7.
- 38 "Miss Louise McCully's Report of Work for Year Ending in October, 1911," *The Message*, May 1912, p.8.
- 39 A. E. Armstrong, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*, 1930, p.273.
- 40 A. E. Armstrong, *Ibid*, 1930, p.270.
- 41 A. E. Armstrong, *Ibid*, 1935, p.282.
- 42 Lida R. MacKenzie, "Korea," *Annual Report of the Woman's Missionary Society of the United Church of Canada*,

1926, p.242.

43 A. E. Armstrong, *Ibid*, 1930, p.268.

44 "Story of Hamhung Girls' School, Korea," *The Missionary Messenger*, May 1925, p.158.